

市村宏 いちむらひろ 歌人、國文學者、文學士。明治二十七年五月六日長野縣上高井郡小布施村生れ、平成元年十一月十日歿（一九〇一—八九）。長野中學校在学中、柴山武矩等の歌誌『水鷲』みづたけに參加、大正十四年三浦義一の雑誌『不知火』同人。翌年大分高等商業學校を卒業して富山房入社、辭書編輯部に所屬し部長楠山正雄の知遇を得る。昭和十二年東洋大學國文學科に入り、十六年卒業。富山房を退き翌年東京白百合新聞社出版局入社。日本文學報國會、少國民文化協會會員として各地で講演。十八年山一書房を興し、二十年白本書院として再出發。翌年雑誌『饗宴』を創刊編輯、また『埼玉』の生涯（昭和二十一年五月五日白本書院）を著す。二十二年新村出の本囀により『廣辭苑』の編輯主任となる。二十八年東洋大學教授、四十八年遼水短歌会を結成し、機關誌『遼水』を創刊主宰。和歌文學會委員長、上代文學會理事長等を務めた。

歌集は『愛の花』（昭和二十九年刊）等四冊、専門書その他隨筆を能くし、『遼水居漫筆—観潮樓の花』（昭和四十九年二月）二十日溪声出版）以降五十八年もの十一冊を數へる。遼水短歌会編『鑑賞市村宏の歌』（平成七年十一月十日溪声出版）『遼

水叢書』にがめらる。

